

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース・シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴43年。 1981年より石川優子のアーティストのサポート活動でキーボーディストを始める。1983年より企業VTR、CM映像などの音楽制作、AKAI電子楽器のデモンストレーター活動も始める。2002年よりESP学園講師就任。現在もアーティストのサポート、映像音楽制作等の活動中。					
授業概要						
コードアナライズ、ボイスンギ(ハーモニー)スケール等の理論的アイデアの向上と習得。サウンド作り、作曲、編曲の幅を向上させる。						
到達目標						
既存楽曲のコードアナライズ分析と研究。スケールからのフレーズ作りの向上。音楽知識の向上でサウンドのレベルアップ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	コードアナライズT.SD./SDM.SecDom.、ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの解釈と確認の復習。 ドミナントモーション5-1の理解の確認エクササイズ。ダイアトニック上で使えるテンション、b9thインターバルのアボイドノートの解説とエクササイズ。					
【前期】 7～11回目	2-5進行でのA.form/B.formボイスンギ、ドミナント、トライトーン解説とエクササイズ。スプレッドボイスンギ、ドロップボイスンギ、アップバーストラクチャートライアドの解説とエクササイズ。 2-5-1-6の進行のボイスンギエクササイズ、トップノートの流れを意識したボイスンギをエクササイズ。					
【前期】 12～15回目	クロマチックスケールを2つに分けるホールトーンスケールをaugコード/3つに分けるディミニッシュスケールとコード、ドミナントコードとトライトーンの解説とエクササイズ。					
【前期】 16～20回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、オルタード、Lydb7th,Hmp5downスケールの解説。 コードアナライズとコード進行に対してのスケール、アプローチノートの解説フレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 21～25回目	7つのモードスケールと各スケール上のダイアトニックコードの解説。モーダルインターチェンジの解説と楽曲分析にフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 26～29回目	ブルースコード進行の種類と解説、ミクソリディアン、ブルーノートスケールの説明とフレーズ作り、サンプルフレーズのエクササイズ。					
【後期】 30～34回目	ドリアンモード、ペントニックスケール上にできる4thボイスンギの解説。循環コードでの使用エクササイズ。 ハンガリアンマイナースケールなどの異国情緒的スケールの解説、参考コード進行でのフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 35～37回目	コードアナライズ、コード進行に対してのスケール、ボイスンギの復習。 6thdimコードワークの解説とドロップ2ボイスンギも使ったエクササイズ。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～7回目	ビジネス文書					
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス # 1-6					
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス # 7-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習					
【前期】 7～9回目	各コースイベント					
【前期】 10回目	アンサンブル発表会					
【後期】 11～13回目	コースイベント					
【後期】 14～16回目	ライブ見学					
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会					
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DTMギター＆ベースⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DTMギター＆ベースⅡa	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	専門学校にて音楽を学びその後サポートギタリストを開始する。コロナ禍を機に作詞作曲編曲、トラックメイキングに力を入れ、現在は自身のソロプロジェクトにて活動、アーティストに楽曲提供も行なっている。					
授業概要						
昨今のポピュラー音楽にて使用されているギターの音色をどのように演奏するか、またどのようなボイスイングやリズムパターンをもって弾かれるているかの分析。それらをギターを弾いた事がない学生に対してキーボードでの打ち込みに落とし込みやすいように理論的な説明を行う。						
到達目標						
ギターを作曲に用いる際のアイデア出しの精度の向上。 また、制作に用いる際の技術を高めより多くのジャンルへの理解を深める。 楽器を修練する事へのモチベーションを高める、ひいては音楽活動へのモチベーションの向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	制作した楽曲にギターでアプローチする。 ・リズムパターンでの奏法の工夫 ・リードフレーズの構築					
【前期】 5～10回目	ギターを主軸とした楽曲の制作 ・和音の積み方の習得 ・音色の使い分けの理解					
【前期】 11～15回目	制作した楽曲にベースでアプローチする。 ・リズムパターンでの奏法の工夫 ・リードフレーズの構築					
【前期】 16～19回目	ベースを主軸とした楽曲の制作 ・和音の積み方の習得 ・音色の使い分けの理解					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DTMギター＆ベースⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DTMギター＆ベースⅡb	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	専門学校にて音楽を学びその後サポートギタリストを開始する。コロナ禍を機に作詞作曲編曲、トラックメイキングに力を 入れ、現在は自身のソロプロジェクトにて活動、アーティストに楽曲提供も行なっている。					
授業概要						
昨今のポピュラー音楽にて使用されているギターの音色をどのように演奏するか、またどのようなボイシングやリズムパターンをもってして弾 かれているかの分析。それらをギターを弾いた事がない学生に対してキーボードでの打ち込みに落とし込みやすいように理論的な説明を行う。						
到達目標						
ギターを作曲に用いる際のアイデア出しの精度の向上。 また、制作に用いる際の技術を高めより多くのジャンルへの理解を深める。 楽器を修練する事へのモチベーションを高める、ひいては音楽活動へのモチベーションの向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	制作した楽曲にギターでアプローチする。 ・リズムパターンでの奏法の工夫 ・リードフレーズの構築					
【前期】 5～10回目	ギターを主軸とした楽曲の制作 ・和音の積み方の習得 ・音色の使い分けの理解					
【前期】 11～15回目	制作した楽曲にベースでアプローチする。 ・リズムパターンでの奏法の工夫 ・リードフレーズの構築					
【前期】 16～19回目	ベースを主軸とした楽曲の制作 ・和音の積み方の習得 ・音色の使い分けの理解					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	Mix		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	Mix	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻を卒業と同時に音楽活動を開始。現在はアーティストへの楽曲提供のみならず、ゲームへのBGMの提供、ドラマ、アニメの劇伴、サウンドプロデュースなど様々な音楽制作をこなす。様々な媒体に応じたアプローチ、そして作曲から、録音、ミックス、マスタリングと、楽曲制作に必要な様々な作業を必要に応じて一人でこなすフットワークの高さを特徴を特徴としている。現在は株式会社ホリプロ音楽制作部に所属。					
授業概要						
歌や楽器のレコーディングの方法や、マイクの種類や使い方を学び実践する。 ディレクションの方法やレコーディングに関しての準備も学習する。 自作曲のミックスができるよう、DAWの操作方法やプラグインの使い方等を学習する。						
到達目標						
良い音を知り、目標の音が作れるようになり、自作曲を仕上げるようになることが目標。 レコーディングをどんな場所でもできるようになるよう、コミュニケーションの取り方も含め実践できるようになる。 自作曲の配信ができるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	[Mixとは何か、必要性の理解を深める] DAWとは何か、授業で使用する音源制作ソフトの特徴や基本操作を学ぶ					
【前期】 6～11回目	[Mixの基礎知識、基本操作の実習] オーディオトラック、MIDIトラック、Auxトラックの違いや使い方について理解する。 トラックの音量の合わせ方、パンの設定の仕方を学ぶ。					
【前期】 12～15回目	[イコライザー/コンプレッサー/リバーブの実習] イコライザやコンプレッサー、リバーブの基礎知識、基本的な使い方を学ぶ。 用途に合わせた使い方や使う意味、効能を学習。					
【前期】 16～20回目	[サチュレーション学習] サチュレーター、テープシミュレーター等の、Mixの質感を上げるための歪みの知識や方法を学習する。					
【後期】 21～26回目	[空間系の設定の学習] 応用的な空間系の知識を深める。 ディレイの種類や用途を学習し、音の広がりや音の馴染ませ方を学習をする。					
【後期】 27～32回目	[ヴォーカル処理の応用] ヴォーカルの処理を学習する。 歌詞を聞き取りやすくするボリュームオートメーションや、ピッチ修正のやり方を学習する。					
【後期】 33～37回目	[ラウドネスのついての学習] ラウドネスとは何かを学習する。 現在のYouTubeやApple Music等にアップロードするときの音圧についての知識と楽曲のマスタリングについてを学習する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	録音制作		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	Rec実習		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴ESP講師6年。 2020年～2022年コードワーク、リズムアナライズ指導、コードアナライズ指導。 2024年ミュージックセオリー					
授業概要						
自分が作った楽曲を誰かに演奏してもらうための譜面作成、録音、演奏者へのディレクションなどを学びながらデータ編集まで行う。						
到達目標						
卒業後、他者に自作曲の演奏をお願いしたり、編曲の依頼があった場合などのスコアライティング知識や、ディレクション経験などを積んでおくための授業。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	自作曲に取り入れる生演奏楽器を決める。同じクラスの人や、他コースなどで依頼できる人を想定し演奏を録音する想定で楽曲制作を進める。Rec日と、それに応じていつまでに譜面や音源データを用意すれば良いかまで逆算し、自身で制作スケジュールを立てていく。					
【前期】 6～10回目	演奏者に渡すためのでも音源(1コーラス最低10曲以上パターン作成)、MIDIガイド音源、(仮歌ボカロ音源)また譜面や歌詞データを制作。自身のセルフプロデュースアルバム作成というコンセプト、前期5曲、後期5曲最終卒業時にジャケットも含め完成。曲ができない、アレンジに困った場合都度セクションを分けて作曲法、アレンジ方法などの授業を追加していく。					
【前期】 11～15回目	演奏者とコンタクトを取り、授業内で講師立ち合いのもとレコーディングを行っていく。					
【前期】 16～21回目	レコーディングしたデータの編集、楽曲のブラッシュアップをし、前半の内容のコンセプト決定。ミックスまで行っていく。					
【後期】 22～25回目	自作曲に取り入れる生演奏楽器を決める。前期制作での反省点や課題点を振り返り、後期作品をどのようなものにするかを考え、制作スケジュールを立てていく。加えてコードアレンジリハなどを使用した実際の曲などを使い分析も行う。					
【後期】 25～29回目	演奏者に渡すためのでも音源とMIDIガイド音源、仮歌ボカロ音源、また譜面や歌詞データを制作する。前期同様作曲でも音源は1コーラス最低10曲以上パターン作成。MIDIガイド音源、ボカロ仮歌や譜面、歌詞データ作成。					
【後期】 30～34回目	演奏者とコンタクトを取り、授業内で講師立ち合いのもとレコーディングを行っていく。前期同様作曲やアレンジに煮詰まった生徒には別途作曲法、アレンジ法などの補足授業を行う。					
【後期】 35～37回目	レコーディングしたデータの編集、楽曲をブラッシュアップをし、アルバム全体内容のコンセプト決定。ミックスまで行っていく。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況、内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	キーボード応用		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	キーボード実技Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴30年。1980年レコードデビュー。1984年音楽学校講師就任。 1995年よりESP学園にて講師就任。 現在もキーボードプレイヤー＆コンポーサーとして活躍中。				
授業概要					
鍵盤楽器の奏法について解説。繰り返し練習する。					
到達目標					
鍵盤奏法の知識習得とテクニック向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする①				
【前期】 5～8回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする②				
【前期】 9～12回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする③				
【前期】 13～15回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする④				
【前期】 16～19回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする⑤				
【後期】 20～23回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする⑥				
【後期】 24～27回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする⑦				
【後期】 28～31回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする⑧				
【後期】 32～37回目	指の練習曲を弾く。初級課題曲の練習。データに合わせてプレイする⑨				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況、内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コライトⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	コライトⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年。音源制作ソフトとそのプラグインを用いたトラックメイキングと編曲、作詞、歌とバイオリンのセルフレコーディングを行い楽曲制作をしている。 自身での活動の他、ボーカリストへの楽曲提供、ゲーム音楽でのヴァイオリン演奏、ライブでのサポートピアニストなどを行っている。					
授業概要						
自身の強み、一緒に制作するメンバーの強みや個性を活かしグループワークでの楽曲制作を行う。						
到達目標						
卒業後、現場に出た際に必ず必要となってくる「他者と作品作りに関わる」ということの難しさを学びグループワークの中で見えてくる自身の強み、共同制作者の個性を引き出せるアーティストになることを目指していく。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	授業の中で対話を重ね、自分が今まで制作してきた楽曲をクラスみんなで聴きながら、どんなアーティストなのかを互いに理解する。					
【前期】 7～11回目	一学年時に培ってきた経験を基に、より実践的、職業的的制作を行う。 自身の個性を活かしながら、コライト相手の作品性を高めていく実習を行う。					
【前期】 12～16回目	2～4名程度のグループに分かれ、前期試験までに一曲提出するための楽曲制作を行なっていく。 実際に楽曲依頼が来たと想定して、テーマや提供アーティストなどを具体的に設定しそれに沿ったグループでの楽曲制作を行っていく。 提出のためのスケジュールも決める。					
【前期】 17～22回目	制作、必要に応じて授業内でレコーディング。					
【後期】 23～26回目	新たなグループに分かれ、冬季休暇までに一曲提出するための楽曲制作を行なっていく。 前期よりもより実践的、細かなディレクションに対応する能力を培い互いの良さを引き出しあえる更なる楽曲の精度向上を図る。					
【後期】 27～30回目	冬季休暇前の楽曲提出。 提出に向け学生自身でスケジュールを決め、必要に応じて授業内でレコーディング。					
【後期】 31～33回目	更に新たなグループに分かれ、後期試験までに一曲提出するための楽曲制作を行なっていく。 卒業を視野に入れ、実際の就職先で活用できる技術の指導 アーティスト志望の学生には卒業後の自身の名刺となるような楽曲制作を目標とする。					
【後期】 34～37回目	授業内にて後期試験の課題のための楽器録り、歌録り、ミキシング。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	サウンドアナライズ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	サウンドアナライズ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	昭和音楽大学を卒業後、映画、舞台の音楽監督、アーティストプロデュース、ポップスソング、自身の作品のリリース等国内、海外に問わず多岐にわたる活動を展開する。					
授業概要						
楽器の音の作り方について解説する授業。その音の作り方を解説したうえで耳コピ、さらには自身の楽曲の中で実際に使用してみる。						
到達目標						
・様々な制作ジャンルに対応できる能力を身につける。 ・楽曲分析が可能な知識の習得。 ・時代に応じた技術に応じた制作ができる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	Hiphop,RnB,Funk等のブラックミュージックを歴史の把握、構成の分析を行い制作。					
【前期】 6～11回目	ケルトミュージックを様々な形式から分析し(楽器、メロディ、時代背景)ファンタジックな音楽の制作を行う。					
【前期】 12～15回目	イマジネーションを刺激させる音響の制作(プールサイド、宇宙空間等)。					
【前期】 16～20回目	仕事の受注を想定した内容で上記の中のジャンルから選び提出。					
【後期】 21～26回目	オーケストラ楽器と現代的な要素を組み合わせた制作。					
【後期】 27～32回目	AI等を使った最新技術を駆使しての制作(プロンプトでの音楽の育成等)。					
【後期】 33～37回目	様々なジャンルを融合したオリジナル曲の制作。 上記の制作のミックス、マスタリングを行い最終作品の提出。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ボカロ実習		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ボカロ実習a		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。					
授業概要						
音声合成ソフトのVOCALOIDの使用方法およびヴォーカルトラックの制作方法を学ぶ。						
到達目標						
VOCALOIDを使用した楽曲制作能力を培う。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	VOCALOIDおよび各種音声合成ソフトの紹介					
【前期】 5～10回目	課題曲(歌詞・メロディライン)の表現					
【前期】 11～15回目	自身の既存曲のヴォーカルトラックをVOCALOIDに置き換える 自由曲制作					
【前期】 16～19回目	楽曲発表とフィードバック					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ボカロ実習		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ボカロ実習a		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。					
授業概要						
音声合成ソフトのVOCALOIDの使用方法およびヴォーカルトラックの制作方法を学ぶ。						
到達目標						
VOCALOIDを使用した楽曲制作能力を培う。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	VOCALOIDおよび各種音声合成ソフトの紹介					
【前期】 5～10回目	課題曲(歌詞・メロディライン)の表現					
【前期】 11～15回目	自身の既存曲のヴォーカルトラックをVOCALOIDに置き換える 自由曲制作					
【前期】 16～19回目	楽曲発表とフィードバック					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ミュージックビジネス		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ミュージックビジネス	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験13年。専門学校在籍時にロックバンドキーボーディストとしてメジャーデビュー。脱退後は様々な現場でサポートキーボーディスト、マネジュレーター、アレンジャーとして活動。					
授業概要						
音楽業界(演奏・制作)での活動において最低限必要な実技や把握しておくべき権利関係の知識、また近年必要不可欠なSNSを使用したプロデュース(自他ともに)・宣伝力を養う。						
到達目標						
現場に必要な最低限のDAWの基礎技術の習得。 収益化を見据えた権利関係の知識への理解を深める。 SNSを使用した企画・宣伝力の向上と流行を的確にキャッチする感度を養う。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	・著作権について 楽曲に対して発生する著作権や著作隣接権などを理解する。 (1～3回説明・4～5回目で例を提示し実際の計算方法や必要な手続きを実践)					
【前期】 7～11回目	・データのやり取りと請求書作成練習 クライアントとの楽曲データのやり取りが正しくできるよう練習。 納品後の流れや請求書の作成方法・税表記などを実践。					
【前期】 12～15回目	・マネジュレーター実習 制作だけでなく、ライブ現場においての仕事もこなせるようマネジュレーターの技術を身につける。 (データの組み方・クライアントとのやり取り・データ管理・現場で必要な操作の練習)					
【前期】 16～20回目	・データ納品 制作、マネジュレーター等に必要データ(音源・譜面・プロジェクト等)の納品が正しくできるように、実際に用意したデータを使用して実践練習。正しいマスター譜の作成や歌詞データ、セトリスト等の共有の練習。					
【後期】 21～25回目	・流行へのアンテナを張る 現在の流行の音楽を知り、なぜ勢いがあるのか、またこれからどのようなものが流行るかの予測をする。 (未発表のフェス等の出演者を予想したり、TV等の出演への予想などをしてみる)					
【後期】 26～29回目	・SNSを使用したプロデュース InstagramやTikTokを使用して自身・他者のプロモーションを行うための研究。 すでに効果を挙げているものはなぜ成功したのかを検証、議論。 今後プロモーションするにあたってどのような戦略を立てれば良いかを考える。					
【後期】 30～34回目	・ディレクション 自作曲のレコーディング時のディレクション能力を高める。実際にオーダーを出し、楽器のレコーディングを依頼しリテイク、修正要望を相手にわかりやすく的確に伝達する方法やポイントを解説、実践する。					
【後期】 35～37回目	・年間復習 権利関係の復習～請求やディレクションまでの一連の流れを再確認。 データ納品やマネジュレーターとしての技術面を再度実践し、現場で生かせるようにする。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	制作実習		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	制作実習		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験8年。大手ゲーム制作会社所属にてゲームBGM制作、その後ポップロックバンドのキーボーディストとしてメジャーデビュー、その後インペグ屋所属ミュージシャンとして様々なアーティストのライブやレコーディングに参加、その後2025年現在まで作家事務所に所属し、様々なシンガーに楽曲・歌詞を提供。その他、編曲・ミックス・マスタリング・ライブサポート・マネジュメント等。					
授業概要						
実際に行われているコンペ形式の楽曲募集を想定し、リクエストに沿った楽曲制作を行う。						
到達目標						
楽曲コンペの募集内容を理解し、リクエストに沿った楽曲デモの制作ができるようにする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	来期アニメ化しそうな人気漫画作品のアニメOPの架空コンペを想定し 歌モノ楽曲を1コーラス制作する。					
【前期】 5～8回目	架空の地下アイドルの架空コンペを想定し、歌モノ楽曲を1コーラス制作する。					
【前期】 9～12回目	架空ホラーゲームのインスト作品を想定し、ループもので1分半のインスト作品を制作する。					
【前期】 13～17回目	前期試験課題曲の制作					
【後期】 18～21回目	現実に存在するソーシャルゲームのバトルミュージック作品コンペを想定し、 ループもので1分半のインスト作品を制作する。					
【後期】 22～25回目	現実に存在するソーシャルゲームのボス戦バトルミュージック作品コンペを想定し、 ループもので1分半のインスト作品を制作する。					
【後期】 26～37回目	後期試験課題曲の制作					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	楽曲創作Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	楽曲創作Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	テクノポップミュージックのユニットとして活動を始め、現在はサウンドクリエイターとしても活動中。 音源制作会社を設立し、アニメ・映画・特撮のサウンドを提供している。					
授業概要						
学生の作品に対して、リズム・メロディ・楽曲構成等、講師が個別に指導を行い、それをもとに学生が作業を行う。						
到達目標						
自分好みの偏った楽曲にならないよう、現場で求められるクオリティの作品に仕上げられるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	リズムセクションのアレンジパターンを指導する。					
【前期】 5～8回目	メロディセクションのアレンジパターンを指導する。					
【前期】 9～12回目	エディット・ミキシング・マスタリング等、楽曲の仕上げに関する指導をする。					
【前期】 13～15回目	レコーディングスタジオで制作した楽曲のリスニングを行う。					
【前期】 16～19回目	リスニングで見えてきた課題を修正する。					
【後期】 20～23回目	リズムセクションのアレンジパターンを指導する。					
【後期】 24～27回目	メロディセクションのアレンジパターンを指導する。					
【後期】 28～31回目	エディット・ミキシング・マスタリング等、楽曲の仕上げに関する指導をする。					
【後期】 32～37回目	レコーディングスタジオで制作した楽曲のリスニングを行う。 リスニングで見えてきた課題を修正する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況、内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						